

04 カトマンズ盆地・王宮広場周辺のダルマシャーラ・共同水場に関する研究
 —世界遺産バクタプル全域を対象として—

1110920138 磯野紘次
 指導教員 市川尚紀 准教授

ネパール ダルマシャーラ 共同水場 配置特性 利用特性

1. 序論

ネパールは、ヒンドゥー教と仏教とインドとチベットの文化などが入り混じり、独特の文化が形成されている。その中でカトマンズ盆地にあるバクタプルは世界遺産に登録され、観光客が増加しているにも関わらず、住民の生活風景やコミュニティが残されている。この王宮広場周辺に存在する伝統的な宿泊所（ダルマシャーラ）・共同水場に関する詳しい資料が存在しないため、昨年はバクタプル西部を調査したが、全容は把握できなかった。そこで、本年度はバクタプル東部におけるダルマシャーラと共同水場の分布を把握し、またダルマシャーラの利用

表 1 調査概要

調査期間	8月8日～8月17日の10日間
調査方法 調査項目	踏査 ダルマシャーラと共同水場
	実測 広場の平断面
	観察 実測した広場のダルマシャーラの利用人数と行為

特性を把握することを目的とした。

このことによって、住宅街、繁華街などの様々な場所でのコミュニケーション行為を促すまちづくり手段を見直すきっかけになると考えた。

2.1 ダルマシャーラ・共同水場の存在密度

西部と同様、東部もダルマシャーラと共同水場は調査対象地全域に分布しており、バクタプル全域に分布していることがわかった。

東部地域にあるダルマシャーラは92ヶ所、平均密度は約6400㎡/ヶ所、平均分布間隔は約100m/ヶ所であった。昨年のダルマシャーラの数88ヶ所、平均密度は約5000㎡/ヶ所、平均分布間隔は約60m/ヶ所である。よって、バクタプル全域のダルマシャーラの総数は180ヶ所、平均存在密度は約5500㎡/ヶ所、平均分布間隔は約80m/ヶ所であった。

東部の共同水場は88ヶ所、西部の共同水場は75ヶ所だった。よって全域の共同水場は163ヶ所存在する。

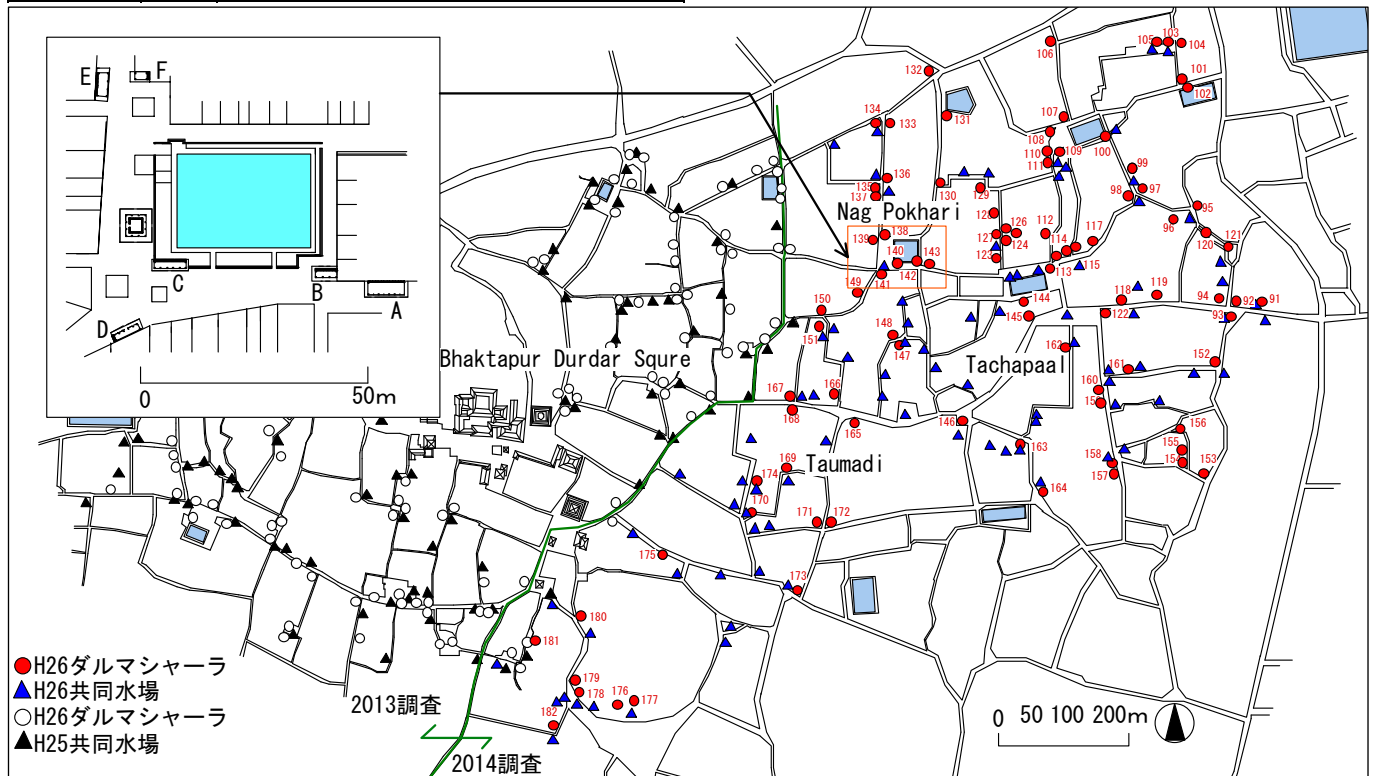


図 1 バクタプル全域のダルマシャーラ・共同水場の分布

A Study on DHARMASALA and Shared Water Space around DURBAR Square in KATHMANDU
 -As a target the whole field of BHAKTAPUR that is world heritage -

ISONO Koji

環境設計研究室

2.2 ダルマシャーラ・共同水場のタイプ別分布

(1) パティ (図 2)

ダルマシャーラは独立して存在する独立型(パティ①)、一般の住宅の1層部分に設けられているピロティ型(パティ②)、住宅などの建築物と壁面を共有し、建築物に付随している外付け型(パティ③)の3種類に分類される。

パティ①独立型 (11ヶ所) : 東部の調査対象地の外周部分に多く分布していた。

パティ②ピロティ型 (27ヶ所) : 住宅地に多く分布している傾向があり、小規模なものが多かった。

パティ③外付け型 (52ヶ所) : 調査対象地の東側の方に多く分布し、密集してあることが多かった。

ダルマシャーラを更に分類すると図 2 の様に 8 種類に分類できる。




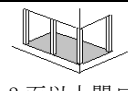

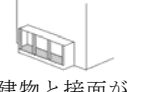


昨年と同じようにダルマシャーラの分類ができ、街中に偏りなく分布している。

(2) サッタール

サッタールは、ピロティ型、層型、家型の3種類あり、東部にはピロティ型が2ヶ所だけあり、主要街路の近くに分布していた。

(3) 共同水場

共同水場は、西部では①貯水型、②非貯水型、③水栓型の3種類に分けられ、①貯水型は、さらに掘割式、タンク、井戸に分類できた。この定義で数えると、東部には①42ヶ所、②29ヶ所、③17ヶ所あり、西部には①25ヶ所、②17ヶ所、③28ヶ所、不明3ヶ所存在した。しかし、今回の調査では、タンクと井戸が一体になったものや、水栓とヒティの区別が困難なものなどがあり、西部の調査で行った分類方法では、東部の共同水場が分類できなかつたため、改めて分類方法を検討する必要がある。

パティ	① 独立型	A	B	C
				
		長方形の屋根と床の簡素な形 *11+9=20ヶ所	正方形の屋根と床で屋根が2重 2+0=2ヶ所	長方形の屋根と床で屋根の下に装飾 6+2=8ヶ所
	② ピロティ型	D		E
				
	2面以上開口 18+13=31ヶ所		1面開口 13+14=27ヶ所	
	③ 外付け型	F	G	H
				
		建物と接面が1面 19+30=49ヶ所	建物と接面が2面以上 11+20=31ヶ所	外付け型の上が屋上 6+2=8ヶ所

*西部の数+東部の数=合計

図 2 ダルマシャーラの種類と数

3. ダルマシャーラの利用特性

8月16日8時から18時までの間、10分おきに Nag Pokhari 広場の観測点A~Fの計6ヶ所(図1左上)を、くつろぎ、遊び、仕事の3種類の行為別に観察した。なお、この日は14時40分頃から街全体で祭りが開催されていた。図3は行為別の延べ利用者数と、東部と西部の1ヶ所当たりの平均利用者数を示している。

くつろぎで利用する人は朝は少なく、時間が経つにつれて増加していった。これは、14時40分から祭りが始まり、観客がダルマシャーラを利用したからである。

遊びで利用する人は数は少ないが、朝、昼、夕方の方の3つの時間帯に利用されていた。

仕事で利用する人は、10時20分~14時40分の間が多く、これは祭りの準備をしていたからである。その他の時刻ではほとんど見られない。これらのことから、ダルマシャーラは、主にくつろぎの場として使用されていることがわかる。

西部の平日の主要街路ダルマシャーラの1ヶ所当たりの平均利用者数と、東部の祭りがあつた広場の1ヶ所当たりの平均利用者数を比較すると、広場では朝が半分以下、夕方が2倍以上の利用者数であつた。

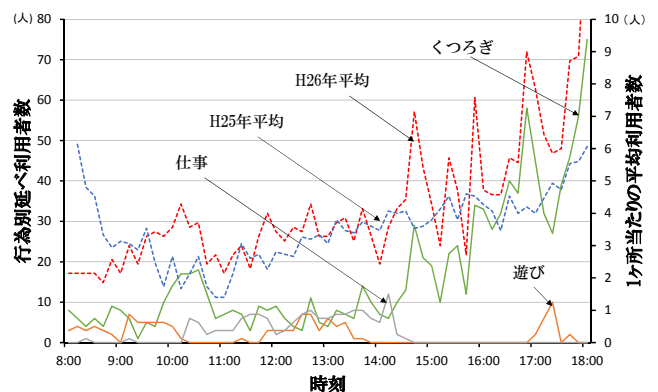


図 3 ダルマシャーラ利用者数

4. まとめ

調査対象地全域にはダルマシャーラ 180ヶ所と共同水場 163ヶ所が分布していた。

ダルマシャーラの平均存在密度と平均分布間隔はバクタプル全域で約 5500 m²/ヶ所、約 80m/1ヶ所であつた。

ダルマシャーラは昨年と同じように分類でき、街中に偏りなく分布している。

ダルマシャーラは祭りで観客席や準備のためなど、多くの人に使用されていた。

また、調査対象地の共同水場の分類方法を改めないと、正しく把握できないことがわかつた。

参考文献

- 1) 黒津高行ら：パタン市における水場ヒティの分布と空間構成について、日本建築学会計画系論文集、NO. 71、pp. 621-624、2001. 3
- 2) 渡辺智寿ら：パタン市における水場ヒティの平面類型について、日本建築学会計画系論文集、NO. 71、pp. 625-628、2001. 3、